(1) 「よさ」を把握し，生かし，意識化させる指導―第一次実践における指導の手だてと児童の活動―

時	指導目標・内容	指導の手だてと児童の活動
	1時 ＜略＞	
2	●「よさ」の把握 ◦2つの教材に対して，教師側の与えた視点に立った自分なりの考えを書き表すことができるようにさせる。 ・内容を理解しながら読む。（10分） ・準備したプリントにある視点（設問の形）に沿って読み進めながら書き入れる。 ◎（視点） ○「おみやげ」について (1) おみやげという言葉から，あなたはどんなことを想像しますか。 (2) フロル星人が，「タマゴ」におみやげをつめたのはどうしてだと思いますか。 (3) タマゴの中に他の物を入れるとしたら，どんなものを入れたいと思いますか。 ○「宇宙人の宿題」について (4) 宇宙人とよしこの話し合いから，あなたはどんな考えを持ちましたか。 (5) 宇宙人が残した「宿題」は何だったのでしょう。 (6) 宇宙人が残した「宿題」についてあなたはどのように考えましたか。 (7) よしこさんが言った他に地球のすてきなところはどんなところだと思いますか。 ○「2つの作品」に共通することについて (8) 2つのお話を読んで，似ていることはどんなことですか。 (9) 2つのお話に書いてあることから，あなたはどんなことを感じましたか。	「視点に立った自分なりの考えを書き表わす」プリントを準備する。 （導入段階での把握） ・教材に対する認識とその 仕方について記述する。 国語『楽しく読もう』学習プリント 五年一組 氏名 F・S ☆「おみやげ」と「宇宙人の宿題」を読んで，つぎのことについて，あなたの考えを書いてください。 (1)「おみやげ」という言葉から，あなたはどんなことを想像しますか。 だれかがおみやげをもってくるのかなあと思った。 (2) フロル星人が，「タマゴ」におみやげをつめたのはどうしてだと思いますか。 かさあるものとしらずにすててしまうからだと思う。 せいのタマゴにつめたと思う。 『個人カルテ』に記入する。 ◦2時目でのよさの把握 ◎よさの把握③ 教材に対する見方や考え方―「視点についての感想」
3	●「よさ」を生かす指導 ◦「おみやげ」と「宇宙人の宿題」について，2時間目の各視点に基づいて話し合ったり，考えをまとめたりしながら読みを深めることができるようにさせる。 ※ 2時間目でとらえた児童の認識の仕方（見方や考え方）を生かしながら展開し，次のような読み深めができるようにさせる。 (1)『おみやげという言葉から，あなたはどんなことを想像しますか。』について ＊「おみやげ」という言葉についてのイメージ→あげる側の気持ちともらう側の気持ち ＊フロル星人の考え→地球人に対するやさしさ，平和に暮らすことのできる高度な文明 ↓ （地球人の文明は，フロル星人の考えていた文明のようにはならなかった） (2)『フロル星人が，「タマゴ」におみやげをつめたのはどうしてだと思いますか。』について ＊「タマゴ」のイメージ→文明に役立つもの，生命体である，成熟していく，生まれる	・カルテ（座席表）を使って視点毎にまとめたものを準備する。 F・S 1. だれかがおみやげをもってくるのかなあと思った。 2. 価値あるものとしらずにすててしまうから金属製のタマゴに。 K・O 1. だれかがおみやげをおいていく。 2. サルとかがおみやげをもっていってしまうから。 【座席表による意図的指名】 【自分の考えをチェックできるノート】 ・話し合いの過程で出てきた友達の考えに対して自分なりに考えをチェックできるノートを準備する。 よしこさんについて 宇宙人との会話はゆめやうわ とではなく，本当にあったこと だと思う。宇宙は文明が進んで いるからゆめのせかいに入ってな かをすることくらいかんたんだと思 うから。
4	＊「開けられる時を待ちながら」・・・昼間は太陽を反射して強く光り，夜には静かにかがやいていた。（人類に対する期待，希望） ↓ 「ずっと待ち続けていた」・・・雨でぬれ，時々強い風がふく，風は砂を飛ばし（人類に対する不安，心配） ↓ 「われる日がきた」・・すべてをこなごなにし，あとかたもなく（人類に対する期待，希望の破壊） 5・6時 ＜略＞	◦カルテによってとらえられている「よさ」を具体的に生かす手立て ・意図的指名をする。 ・ノートの活用等
7	●発展教材の自己選択 ◦教科書教材と同じ価値（同じようなテーマ）を持つ作品を与え読ませることにより，児童の見方や考え方，興味・関心に応じて作品を選択させ，テーマに対する認識をより深め高次なものにすることができるようにさせる。 （準備する作品） ア，六本足の子犬 イ，小さな星の子 ウ，変な怪獣 エ，プレゼント オ，地球を見てきた人 いずれも，星新一「きまぐれロボット」（角川文庫）小松左京「宇宙人のしゅくだい」（講談社文庫）に掲載されているものである。 ＊作品を教科書の表記に直したものを児童に配布する。 ＊内容の読みに1時間とる。 ＊「作品選びカード」を個人に持たせ，児童一人一人が詳しく勉強してみたい作品を選ばせる。（複数選択） 8・9・10・11時 ＜略＞	【作品選びカード】 記号 / 作品名 / 選んだ理由 ア 3 / 六本足の子犬 / 六本足の子犬がでてくるからおもしろかった イ / 小さな星の子 / ウ 1 / 変な怪獣 / ロボットのかいじゅうがしけん用だったから。 エ 2 / プレゼント / かいじゅうのかおとうちゅうじんの思っていることがおもしろかった。 オ / 地球を見てきた人 / ・教材選択カードの準備 ○選択する作品 ○選んだ理由 ・児童の見方や考え方，興味・関心による作品の選択（個人として）
12	●「よさ」の意識化 ◦教材で学習したテーマについて，発展教材を用いて読み深めたことを発表し，話し合いの中で認識を深め，自分なりの考えを持つことができるようにさせる。 ＊二つのグループでそれぞれが選んだ観点について発表する。 ＊二つのグループの発表について話し合いをする。 ＊全体で話し合ったことをもとにグループの中で，自分なりの見方や考え方を話し合い，自分の「よさ」を知る。 ＊友達が見つけてくれた「よさ」と，先生が見つけてくれた「よさ」を自分で考えている「よさ」と比べて自分の「よさ」を意識する。 ◎一人一人が意識した「よさ」を次時の学習に生かせるようにする。 （留意事項） ・発表での司会者は児童の中から選出する。 ・全体での話し合いは，児童の司会で進めるが，指導者は適宜指導する。 ・テーマからはなれない方向で話し合いを持つ。 13時 ＜略＞	【「よさ」の意識化】 （グループ学習・活動を通してとらえたグループ構成員の「よさ」を記述する。） ○主題にかかわる見方や考え方について ○グループでの活動について ↓ ○友達から出されたもの ○教師の観察から出されたもの ○自分でとらえたもの ↓ 〔書かれた自分の「よさ」をまとめる〕 ※「よさ」の発見カードへの記入 ↓ 「よさ」の意識化」 ↓ 「よさ」を意識した学習への取り組み 指導過程は51ページ